

『旅立ちの時』

船戸クリニック内科 くおん

私は医師として、人生の終わりの時に立ち会わせていただくことがある。

約20年前、ある方の看取りに伺った時に、そのお顔のあまりの神々しさに、思わず、「ありがとうございました」と深々と頭を下げていた。旅立ちの時に立ち会わせていただいたことに、ただ感謝していた。あの時の感覚は、いまだに鮮やかに蘇る。あの神々しさは一体何だったのだろうか？

古代では、死は神聖なものだった。古代の人々は、死について、現代の私達よりもはるかによく知っていた。知識があると準備ができる。不安がなくなる。サポートもできる。

死により全てが消えてしまうのではない、と漠然と感じていた私は、十数年前、ダマヌール の知識の学校に出会い、系統だった知識を学び出した。死を知るためには、人間とはなんぞや？宇宙とはなんぞや？構造は？法則は？と、それ以前には全く知らなかったことを少しずつ学んでいく必要があった。そして学ぶにつれ、人間ってなんてすごい存在なんだ！という感動とともに、人間についてさらに深く知りたくなった。人間と宇宙の繋がりについても興味を持った。死を学ぶことは必然的に、生きるということを学ぶことに繋がった。人は何のために生まれてくるのか？どこに向かうのか？私は、宗教としてではなく、知識を学び始めた。

人それぞれの旅立ちの瞬間がある。しかしその後の順調な旅路のために、誰にも共通する大切なことがある。

体が弱ってきて、はっきりと言葉には出さないけれども、死に対する不安を感じている方に接する機会がある。恐れでいっぱいになっている方もいらっしゃる。その方の傍で、私は、肉体から離れたのちに何が起こるか？どうしたらいいのか？を語る。そして、落ち着いていたら大丈夫だよ、と締めくくる。不思議なことに、その話をさせていただく間は、それまで苦しそうだった呼吸が落ちついていたり、表情が穏やかになったり、閉じていた瞼が開いたりする。先日は、閉じた瞼からスーッと一筋の涙を流した方がいらした。意識がはっきりしていなかったその方にも、多分、言葉は届いたのだろう。

この人生の終わりは、この人生の集大成であり、次に向かうための準備の始まりでもある。

その大切な時を安心して落ち着いて通過することができたら、より良い次へと繋がることできるだろう。私はその事に多少なりとも関わる事ができる事に、深く感謝している。

※ダマヌールホームページ <http://www.damanhur.jp>